

＜調査結果＞ 「合格率と現場の声」のギャップ

当社には教育相談で、全国の施設教育担当者から多数の「現場の声」が毎日のように寄せられている。「現場の声」を分類すると、表1の「否定的意見」と、表2の「肯定的意見」のような声が多くある。しかしながら、表3の合格推移を見ると明らかなように、外国人の介護士合格率は低いと言わざるを得ない。この原因を調査した結果、【受け入れ側の受け止め方と受験者の能力のギャップの大きさ】が明らかとなった。

順位	否定的意見 (表1)
1位	国家試験問題を理解して解いているのかが心配
2位	漢字が読めても意味が分からないので解けない
3位	会話はある程度通じるのに、申し送り等が書けない
4位	指示通りに仕事ができているため、職員の確認が必要

順位	肯定的意見 (表2)
1位	会話はできるので大丈夫
2位	業務上差し支えない
3位	日本語教師・学校に任せているので問題ない
4位	事業団のテストでは上位だから大丈夫

合格率推移 (表3)	
2012年度	37.9%
2013年度	39.8%

「到達度試験」に参加して、合格後、日本人職員をも指導する人材になった！！

- 入職してすぐ【到達度試験】に参加した。当初は日本語力がほとんど無かった。【到達度試験】は、全てが記述式で答える問題で、「読解力」と「文章力」が一番身についた。書く力が身についたため、ワンワードコミュニケーションではなく、センテンスコミュニケーションで対応できた。
- 国家試験対策時には、介護の参考書や専門書を読破できるようにもなっていた。過去問題が易しく感じられているようで、自分達だけでスラスラ読み、問題を解きこなしていた姿には驚いた。そのため、職員が指導することは、ほとんど無く自学していた状態だった。
- 国家試験の問題を解くよりも、【到達度試験】の問題を解くほうが受験者は難しくて、大変だったようだ。そのおかげで国家試験問題は易しく感じて、試験問題を再度見直す余裕もあり、二人とも合格できた。
- 合格後は業務では全く問題無く、日本語が正確に身につけられたため早番・遅番もこなし、申し送りをしなくても、円滑に仕事ができるので、日本人以上に仕事を頑張っている。新しく入った日本人職員にも仕事を教えられる程、頼もしい存在になって、施設としては本当に助かっている。

(滋賀県・福寿荘)

I、「肯定的意見」と合格率推移の矛盾

- 上記の表2と表3を比較して見ると、「肯定的意見」の1位～4位までの声が、表3の合格率推移に反映されていないことは、明白な事実として受けとめる必要がある。
- 即ち、2013年度の合格率を見ても、わずか39.8%にしか過ぎず、「肯定的意見」が多数の施設の意見であることを考えると、合格率があまりにも低すぎて、現実の合格者を確保できないことが判明した。
- この「肯定的意見」は、日本人が受験者の言語能力を正しく把握しておらず勝手に、そして、主観的に判断しているにしか過ぎない。特に、4位の【事業団のテストでは上位だから大丈夫】との意見は、毎年聞かれる意見だが、実際に受験して上位と言いながら、不合格者を多数出している事実がある。
- このことを考えると、「事業団のテストの内容」と「国家試験の内容」とは、ほど遠く異なった内容であり、受験対策の勉強に役立っているとは、決して言えないことが分かる。

Ⅱ、「否定的な意見」と合格率推移の整合性

- 表1と表3とを比較すると、「否定的意見」は合格率推移を正しく反映している。即ち、客観的な態度で、受験者を観察し、評価している意見が1位～4位を占めている。合格率の低さの原因は、「言語能力の無さ」ということを、はっきり認識した上で受験者を評価している。
- 現場の声の中で、受験者が日本人職員の指示に対して「はい、分かりました」や、何を言っても「はい、はい」と対応するために、【何が分かっているのかが分からない】という声が多数聞かれる。このことは、「肯定的意見」の中にも多数ある。この点を解析すると、表2の「肯定的意見」とは矛盾するものであり、専門的な立場から言うと【日本人の受験者に対する言語能力の評価が、いかに曖昧で、いい加減なもの】であるかがよく分かる。よって、「否定的意見」が「肯定的意見」より客観性を有しているために、「合格率に対する言語能力の反映をしているもの」とみるべきだ。
- 1位の「国家試験問題を理解して解いているのかが心配」という意見は、受験者の言語能力に疑問を持っていることを表している。これを打開するには、【外国語対応の知識と日本語教育の専門的な知識を知ること】が、是非とも必要なことだ。表1の「否定的意見」は表2の「肯定的意見」より、全体的に見るとはるかに少ない。この結果、表3合格率推移の数字は、「否定的意見」の裏づけとなっていることが判明し、「否定的意見」の中に受験者の言語能力の実態を見ることができる。

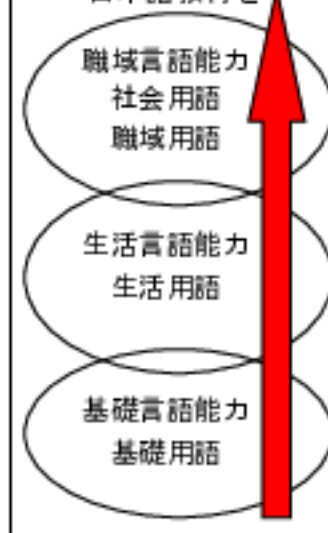
Ⅲ、不合格率の高さは、「認識の甘さ」と「日本人感覚の判断」が起因

- 表2の「肯定的意見」に表されている通り、受験者の言語能力を過大に評価し、「ワンワードコミュニケーションで会話ができる状態」をも日本語力と錯覚して、「日本語は大丈夫など」と思い込んでいる関係者があまりにも多く見受けられる。その結果、受験者は【聞く日本語は何となく理解できるが、話して、読み、書きする日本語力はほとんど無い】という現象が顕著に表れている。仮に、【国家試験合格ができて、日本語を伴う業務では日本語での実務能力が無い】ために、単純作業だけさせられ、職員から「責任ある仕事を任せられない介護士」と烙印を押されてしまう。
- 受験者に対応する日本人職員の「主観的で、勝手な思い込みの日本人感覚」が、「使える介護士を育てられない」原因となっている。これらの日本人側の対応が、不合格率の高さの大きな原因であることを認識しなければ、「どのような対応をしようとも、合格できない」と言わざるを得ない。

Ⅳ、合格者を出すための方策とは？

- 受験者は、「最低限の専門知識を身につけた高学歴者として入国」している。しかし、その専門知識を十分に日本で発揮できない原因は、全て日本語能力の無さにある。このことを大前提に捉えるならば、受験者の日本語能力を表4の図式に従って養うことが、責任ある合格への現実的な方策と言える。
- 即ち短期間で、そして、効果的に「外国語としての日本語能力」を【人間が言語習得をする過程に沿って学習させる】方法が自然な方策で、世界の外国語習得方法と一致したものだ。このことの重要さに気づくか気づかないかで、「受験者の国家試験合格か、不合格か」が決定される。
- しかしながら、全国の施設では日本語能力が無い受験者に対して、専門用語の暗記や、専門知識の学習を強制的に行っていることは、【人間の言語習得過程を無視する方法】であり、言語道断の学習方法と言わざるを得ない。その結果が、表3の合格推移として表れている。
また、日本語学校やボランティア日本語教師に全てを任せて、無責任な教育管理が「肯定的意見」の中で多数あることは、無責任教育体制を取り、「受験者の言語能力の低さに責任転換をしている」と言わざるを得ない。

(表4)
科学的で計画的な
日本語教育を



施設の声

★ 指導の仕方と指導力を早めに見極めて、「合格できる能力」を育成することが重要！

「期待した教育効果がないために困惑！」

- 受験者のモチベーションが上がっていないのと、専門の先生に指導を依頼していたが、やはり施設の職員が教えたほうが効率が良いと考え、職員が指導することに切り替えた。
- 時間に余裕がないのと、自学させてもなかなか上手くいっていない。英文での指導は避けたほうが良いと、御社からアドバイスを頂いていたが、英文と日本語のものを使いながら仕方なく、試験対策をしている。正直に言って、教育指導をどうしたら良いのか分からず、今後の進め方に困惑している。

(石川県・K施設)

「日本語学校では効果が上がらず、 職員の指導で変化が！！」

- 入職時の日本語力はほとんど無く、会話もできないほどだった。そこで、日本語学校に一年間通学させたが、教育効果が全然ないため辞めさせた。その後は施設の職員が素人ながら四苦八苦して日本語を教えている。担当する職員は、多忙の中で日本語教育をするために大変だが、少しずつ教育効果が出てきていると感じている。
- やはり、直接、職員が受験者に教育する方が、学校やボランティアに無責任に任せるより、受験者の日本語力の変化がよく分かるため、様々な問題が生じてでも対応できるので、管理方法を切り替えて非常に良かったと思っている。月報で再三述べられている通り、「教育は責任を持って指導すること」という原則論の大切さがよく分かった。(兵庫県・A施設)

「日本語教師に任せるより、 職員のほうが効果あり！！」

- 入職当初から専属の日本語教師を信頼して指導を任せていた。御社から案内を頂いた記述式の「10分間テスト」を昨年、参加して考察指導をして頂いた。その結果、言語能力の到達度は小学校3年生レベルと判断されたが、そのまま、日本語教師を信頼して任せていた。
- 会話は、表面的には全く問題なく、業務もスムーズにこなしてきていたつもりだったので、この調子で受験対策も順調に進むものだと思っていた。そのため、日本語教師に依頼するのは今年の夏までとして、それ以降は本格的に受験対策を計画していたから、職員が学習を見ることにした。
- 職員が受験対策に取りかかって指導を始めたが、日本人と同じ過去問題を解かせても、なかなか理解ができていない状態で、正直、困惑している。以前に「10分間テスト」で指摘された問題点がやっと理解できた。
- これまで、順調だと思っていたことが、受験対策では、太刀打ちできないほどの日本語力であったことに気づかされた。
- 日本語教師を信頼していたために、「10分間テスト」の結果を無視して進めた結果が、「こんな能力になった」と考えるとショックが大きい。やはり、職員が受験者の能力を客観的に把握することがいかに大切であるかが分かり、今は問題解決に取り組んでいる。

(静岡県・I施設)

「合格後、実務業務で苦勞・・・！！」

- 来年受験を控えている受験者の学習は、決して順調とは言えない。延長で残っているため、受験対策を中心にほとんどが自学させている状態だ。問題を読み解く力が無い事が最大の問題だが、どのように指導したら良いのかが分からない。
- 合格した二名の介護士もいて、現在、働いているが、利用者さんとのコミュニケーションが上手くとれていないのが実態だ。本人たちは、「合格前の研修中のほうが仕事が楽だった。合格してからの業務が難しく大変だ。」と言っている。このことは、日本語力の低さにあることは明らかだ。
- 合格したからには、日本人と同じように早く仕事ができるようになってほしいということを望んでいるが、どうしても、「申し送り」や「介護日誌」を書くことができないでいる。合格前までは、文章を書かせたりすることもしなかったが、実務をする以上は書く能力が必要不可欠になることは当然だ。しかし、彼女たちにはそれが無いので問題だ。
- 本人たちが本格的に働き始めて、自分の日本語力の低さに、一番苦勞しているし、悩んでいることが分かる。施設としても、「働ける日本語力・使える日本語力」を受験勉強の時から身につけておく必要があることを感じた。彼女たちが日本語力の無さが原因で帰国してしまうことが一番心配だ。

(大阪府・Y施設)

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

※ 【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 年度国家試験で受験者数95名中 36名が合格し、その 36名中 19名（52.7%）がこの【到達度試験】を受けた受験者でした。 25年度では、128名の国家試験合格者のうち、【到達度試験】参加者は76名で、合格者は68名（89.4%）でした。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。 さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。 定期的試験結果を数値化し、職員に指導の仕方を考察票でお送りしておりますので、安心してご指導頂けます。 是非、ご参加下さい。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職域 言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活 言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎 言語能力を養う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回	75 %	受験者の現状の日本語能力を観る。		

【国家試験受験能力到達度試験】参加のすすめ

- 1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。
- 2、言語能力の到達度チェックは、2ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。
- 3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率を高めることとなります。この理由から、本試験のEレベル～国試3レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。
- 4、最も大切な言語能力は、日本語の基礎言語能力（初回～Dレベル）です。この段階の到達度が目標数値を越えれば、国家試験受験能力はほぼ達成できるように作られています。

【国家試験受験能力到達度】試験と【教材】申し込み書		<送付先：FAX 03-6677-0632>	
施設名/病院名：		ご担当者名：	
所在地：〒			
電話：	FAX：	メールアドレス：	
<受験人数> 名			
<受験者の国籍> インドネシア（ 名） フィリピン（ 名）			
※ 下記の料金は受験者1名あたりの金額です。該当するレベルを○で囲んで下さい。			
<単発受験>			
初回・レベルA・B・C・D・E・F・国試1・2・3		@20,000円 × 名	合計金額 円
※ 考察のみで、電話やメールでの指導相談は行いません。			
<継続受験>			
初回から全10回（教材費・考察指導料込み）		190,030円 × 名	合計金額 円
※ 継続受験については、電話やメールでの指導相談を随時、行っています。			

★ 教材のすすめ 下記の教材は、受験者が自分で日本語の【規則性と用法・運用能力】を養うことができる自学教材です。特に、国家試験問題に対して必要な「読解力」が養えます。

※ ご希望の教材の冊数を（ ）内に必ず、ご記入下さい。

100万人の日本語No.1（ ）冊	ひらがなかーど（ ）冊	漢字の一と1（ ）冊
100万人の日本語No.2（ ）冊	ひらがなの一と（ ）冊	漢字ノート2（ ）冊
100万人の日本語No.3（ ）冊	カタカナノート（ ）冊	

お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込み先にお支払い下さい。送料は着払いにさせていただきます。

ことばの研究社 〒164-0002 中野区上高田 3-2-13 石田ビル 303

電話：03-6317-6009 FAX：03-6677-0632 メール：kotobaken@yahoo.co.jp